

茂原市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 第2回会議 概要

開催日時	平成27年7月16日(木) 14時00分～
開催場所	茂原市役所 5階 502会議室
出席者	推進会議委員14名(うち2名所用のため欠席) 永長副市長、事務局(岡澤企画財政部長、中村企画財政部次長、高橋企画政策課政策推進室長、深山企画政策課主査、吉野企画政策課主事) 株式会社ちばぎん総合研究所(関調査部副部長、福田調査部主任研究員)
会議次第	1. 開会 2. 挨拶 3. 報告 (1) 各種意識調査の結果及び長期人口ビジョンの中間報告について (2) 総合戦略における重点項目及び作業部会からの施策提案状況について 4. 協議 テーマ：茂原市の特色と施策の基本的方向性について 5. 閉会
会議要旨	2. 挨拶
岡澤部長	今回が第2回の推進会議となりますが、大変お忙しい中、会議に出席いただきお礼申し上げます。  この総合戦略につきましては、10月までの短い期間での策定ということで、既に市の内部でも様々な会議を行い、少しずつではありますが戦略を打ち出しているところです。  本日の協議事項にもあげさせていただきましたが、茂原市として、この総合戦略の独自性を出すためには、市の持っている特色を引き出し、それに向かった戦略の策定が重要になってくると思われまます。本日の会議の中で、多方面からのご意見を伺うことにより、総合戦略の基礎となる施策の策定、そしてこの戦略の特色づくりのヒントが得られればと思ひます。どうか忌憚のないご意見、ご発言をお願いいたしまして、あいさついたします。よろしくお願ひいたします。

### 3. 報告

(1) 各種意識調査の結果及び長期人口ビジョンの中間報告について  
株式会社ちばぎん総合研究所から資料に基づき説明

(2) 総合戦略における重点項目及び作業部会からの施策提案状況について  
事務局から資料に基づき説明

#### 【主な質疑応答】

- |     |   |
|-----|---|
| 委員  | • 都市住民アンケートの回答数は何人か。  |
| 事務局 | • 東京都、神奈川県、埼玉県それぞれ 350 サンプルずつ。計 1,050 サンプルである。  |
| 委員  | • ランダムに抽出した対象者ということか。   |
| 事務局 | • WEB アンケートで実施した。登録している会員から回答が 1,050 サンプル集まった時点で終了するシステムである。  |
| 委員  | • 茂原市内のアンケートの対象者は何人か。   |
| 事務局 | • 3,000 人である。   |
| 委員  | • 人口動向分析において、2010 年の男性の「その他転入」が多くなっている原因は何か。  |
| 事務局 | • 2010 年は国勢調査があり、その調整が入っている。また、国外からの転入も「その他転入」に含まれる。県内県外の判別が付かなかったものであるが、2010 年に多くなっている明確な理由は不明である。 |
| 委員  | • アンケート結果の要望に「地元雇用に対する補助金の拡充」とあるが、現行の利用率はどれほどか。また、各企業に対しどのように周知しているのか。                              |
| 事務局 | • 新規進出企業が地元雇用をした場合を対象にしているものであり、現時点で沢井製薬のみである。<br>• 企業立地奨励金に上乗せする雇用促進奨励金であるため、従来から存在する企業は対象外となる。    |
| 委員  | • 沢井製薬が地元雇用をすると、補助金がずっともらえるということか。  |
| 事務局 | • 一定の対象期間内である。  |

### 4. 協議

テーマ：茂原市の特色と施策の基本的方向性について

【主な質疑応答】

座長

- 茂原市としての特色をどのように総合戦略に盛り込むか。アンケート結果はどの自治体でも大きな違いはない。特色がなく、ただ横並びの政策になってしまうとなかなか成果に結びつかない。そこで、みなさんからの提案をお願いしたいということである。
- 戦略であるので、個別の分野にいくつかの事業をぶら下げるだけでは済まない。事業と事業を掛け合わせることでより特色を出すという考え方もある。
- 作業部会からの提案でイクメン育成事業があるが、男性に子育てに参加してもらうには、イクメン育成事業だけをやっても足りない。子育てをしたくても、仕事で毎日帰りが遅い場合は物理的にできないからである。例えば、男性が育児に参加することに理解のある企業にはインセンティブを付けるなど、絡めて考えないと成果に繋がらない。そういった繋ぎ方でイメージを膨らませていただきたい。

副市長

- 他の自治体で、企業が子供の人数を公表しているところがある。子供が多いということは、その企業は子育てに理解がある企業であろうと客観的に判断できる。
- アンケート結果から、就労の場の確保への要望が高いが、茂原市民でも所得の高い人は千葉市や東京都に行ってしまう、茂原で働いている人は近隣町村の住民である。高学歴の人は地元で就職しない状況であり、教育に力を入れ進学率を上げると、逆に都心部へ出て行ってしまう。

委員

- 高校を卒業すると出て行ってしまうのは、やりたい仕事がないから。長生高校は進学校であるので、地元で起業できるような支援をしてはどうか。先日中学生に対して経営シミュレーションの体験教室を行ったが、真面目に取り組んでいた。良い仕事があり楽しい会社があれば地元に残るのではないか。

座長

- 学歴を積んでいくと市外へ出て行ってしまう傾向がある中で、大学を卒業後も茂原市で起業したり、チャレンジができるといった就業支援の方法もある。

委員

- 国際化やイクメンなど、特色を明確に打ち出すとマスメディアも取り上げやすい。企業誘致に関しては、企業は資源のあるところを選ぶと思うが、良い人材がいるエリアというのも企業にとっては魅力である。

座長

- 国際化については、ネイティブを各学校に配置するといった取り組みは他の自治体でもみられる。現在の茂原市で教育の特色はあるか。

委員

- 長生高校のスーパーサイエンスや茂原樟陽高校のロボコンなどがある。

事務局

- 長生高校と茂原樟陽高校の3年生に対して高校生アンケートの実施依頼をしたので、そこから進路や就職先が把握できると思われる。集計結

果が出たら提示したい。

- 茂原市の特色としては天然ガスもあるが、産業の地産地消という意味で特色が出せるのではないか。
- 長生高校、茂原樟陽高校は国際交流に非常に力を入れている。4月に姉妹都市であるオーストラリアのソルズベリーから高校生が来たが、長生高校に声を掛けたところ、生徒が主体となって受け入れの授業の準備をしてくれた。
- 毎年1週間から10日間、25～30名の中学生が引率教員3名と共にソルズベリーへ海外派遣され、交流を持っている。
- 高校が市内に4校もあるということは特色であると思う。
- 茂原北陵高校はダンスで全国大会に出場した。それも特色であると思うが、「他に無いもの」が必要なのではないか。
- 「他に無いもの」という意味では、ダンスに力を入れているところはいくつかないので、そういった着眼点も大切である。
- 以前、高校は市内の生徒が多かったが、いまは大網や土気などから下ってくる生徒が多いのではないか。
- 市外からの通学者はどれくらいいるのか。
- 8割から9割である。
- 長生高校のアンケートが返ってきたが、茂原市内から長生高校に通っている生徒は11%から12%程度であった。アンケートの「茂原市に対して愛着や誇りを持っていますか？」という設問に対して、「はっきりと持っている」「漠然と持っている」と回答した生徒は少ない。現在は学区が無いので、千葉市から通っている生徒に対して愛着や誇りを求めるのは難しい。
- ロケーションの問題は関係ないと思う。高校を卒業後に初めて愛校心が生まれる。ただ、卒業後のステップが茂原市にはないから出て行ってしまう。
- 地元への愛着は卒業後に生まれるのでそこをどう繋げるか。中学高校の時から地域との繋がりを密にしてUターンを狙っている自治体もある。地元の事業者にインターンシップに行くことにより、どんな店があり、どんな仕事があるのかを早い段階から把握できる。
- 圏央道ができたので、他に無いものをつくる必要がある。雨のときのレジャー施設などはどうか。海に行くためにただ通過するだけでなく、茂原に寄ってもらうことを考えた方が良い。
- 圏央道により利便性が向上したが、どうしたら茂原に来てもらえるのか。
- 圏央道ができ、茂原から出て行く人の方が増えたように思う。人を呼び込むにはかなり魅力のあるものをつくらないと難しい。
- 圏央道で成田から筑波まで行けるので、茨城と人の取り合いになってい

委員  
委員

座長

委員

座長  
事務局

委員

座長

委員

座長

委員

副市長

る。茨城と比較し、アクアラインにより東京に近いことが強みである。にいほる工業団地ができるが、工業用水が無いため水を使う業界を誘致することができない。水を使わない流通業界などがターゲットになるが、圏央道が片側1車線のため事故リスクが大きく不利である。

- 委員
  - 大きな大会が開催できるような施設の建設をし、集客するという方法も考えられる。特色を出すためにはハードルの高いものをつくる必要がある。特区を申請するようなものでないと、どこの自治体も同じような戦略になってしまう。
  - 圏央道で茂原に下りてもらうためには、茂原単独ではなく、広域連携で考える必要がある。
  - ゴルフ場が多いので、ゴルフ用品の全国1のアウトレットをつくってはどうか。
- 座長
  - こちらの都合ではなく、観光客のニーズにどう接近していくかを考える必要がある。
- 委員
  - 子供に対する期待は大きい。良い教育を受けさせたくて引っ越す人もいる。茂原でしかできない教育をすれば引っ越してくるのではないか。
- 委員
  - 教育で特色を出すのであれば、高校だと遠くても通えてしまうので、小中学校にすると学区の関係で転入してくるのではないか。
- 委員
  - 高校では遅過ぎる。教育に特色を出したいのであれば、より低年齢の幼児教育で実施した方がインパクトは強い。ネイティブを配置するということも、幼稚園や保育所で実施した方が人を呼べる。ただし、ネイティブだけでなく、他の保育者の質の向上も必要である。
- 副市長
  - 高校は県の管轄であり、小学校は義務教育のため特区をとらないと特色を出すのは難しい。保育所であれば、市の管轄なので特色が出しやすいのではないか。
- 委員
  - 千葉から下の南総地域がなぜここまで衰退したのか考えると、以前は仕事については一次産業が盛んであった。現在は農業での収入が減り、高齢化が進むと更に農業につく人がいなくなる。仕事も住まいも茂原が望ましいが、仕事が市外であっても住んでくれたら良い。若い人たちは自然の中で生活したいと考える人も多いのではないか。
- 委員
  - 若い人で農業に興味を持っている人は結構いる。
- 座長
  - 新規就農に対する支援の動きは他でもあるが、改めてそういったニーズが出てきているという傾向がある。
  - 県内では君津市が総合戦略で農業に力を入れている。県内農業高校とタッグを組み、高校生のうちから就農者を育成している。茂原市は農業振興については重点項目としていないが、茂原市でも考え得ることである。
- 事務局
  - 来週茂原市、商工会議所、市内各金融機関の3者で連携協定を結ぶ。子育て、農業支援に対する融資の枠の拡充や、住宅購入のローンの拡充な

- どのバックアップや、企業とのマッチングをしていただきたいと考えている。現在は体系づくりを進めている。
- 座長
- 新しいことにチャレンジするにしても、既存のものの融合を図るにしても、支援が必要。今回総合戦略には金融機関が入っていることが1つの大きな特徴になる。そういった可能性が膨らまされるかは未知数。地域内発型の動きを作り出していくことは1つの案である。
  - 都市部に通勤できることを魅力にしている自治体もある。東金市の目玉になるという話もある。大網白里市も同様である。
- 委員
- 事務局
- 新茂原駅周辺で住宅が増えているように思う。
  - 市内上林周辺で住宅の建設戸数が増えていることは把握している。
- 委員
- 茂原駅、新茂原駅から電車に乗ると座ることができるが、大網駅からでは座ることができないので、通勤としては便利であると思う。
- 事務局
- 市民意識調査の結果によると、通勤時間 30 分未満が 54%、30 分から 60 分が 20%となっており、地元で職を持っている人が多いと考えられる。また、勤務先については市内が 32.7%、県内他市町村が 31%であった。
- 委員
- ハローワーク茂原管内の求職者は近隣の職場を希望する人が多い。一般的には通勤時間 1 時間を越えると遠いと感じられるが、遠くても 30 分以内を条件にする人が多い。しかし茂原市内は就職が厳しいため、千葉、土気、市原で車通勤を希望する人が多い。
  - 企業に協力いただき面接会を開催しているが、人は集まらない。良い条件がないと求職者は目を向けてくれない。介護施設は人手不足ではあるが、即戦力が欲しいため資格を持っていないと応募できない。また、女性の活躍促進と言っているが、若い人は企業内保育や住まいの提供などのメリットがないと、介護職の応募は増えない。
- 座長
- 求職者が何を期待し、雇用する側がどれだけ応えられるかが問題である。女性が働くことに伴う諸条件、望ましい環境がある。雇用する側が求める資格があれば、資格をとるための支援も必要である。求める側と受け入れる側のマッチングを全体的に見るとどういう状況か？
- 委員
- アンケート結果によるとミスマッチがないとの回答があるが、ハローワークの現場では違う。ある年齢で一度退職した人が、新しい分野で働くのは難しい。希望の条件で求人を探すマッチングをやるが、なかなか紹介できていない。条件を緩和していただかないと難しい。
- 委員
- 通勤という面では、特急の最終が 22 時であったが、圏央道ができ東京一茂原間の高速バスの最終が 23 時になり、とても便利になった。15 年前埼玉県から茂原市に引っ越してきたが、埼玉では通勤 1 時間は近いという感覚である。都内に 1 時間で通勤できるのであれば、筑波のように成功する可能性があるのではないか。また、海が近くにあるので茂原を選んだ。

- 座長
  - 2 児の父親であるが、茂原は教育面が心配である。そこがクリアされれば、とても魅力あるまちであると思う。
- 委員
  - 生活レベルで見たときに、通勤、子育てなど全て連動している。トータルなイメージとして持ってもらうことは非常に大事であるが、どこの自治体の総合戦略を見てもそこが弱い。単発になりがちである。移住を考えている人にとっては色々な条件が揃って初めて移住先の候補となる。
  - 木更津市はアクアラインの影響で人が増え、小学校も増えている。
- 座長
  - 人材派遣の仕事をしており、人材を集めているが、茂原に来ると皆「茂原は住みやすい」と言う。冬が寒過ぎず、大雪が降ることもない。また、茂原の人はやさしい。住んでみると居心地が良いところである。
- 委員
  - 住み良さは感覚的なものなので形にするのは難しいが、最近の住み良さの指標に感覚の部分を丁寧に示していこうという動きもある。
  - 金融機関の立場では地方創生を受けてどのような状況か？
- 座長
  - 金融機関の立場としてはお金をどうまわすかということが 1 番である。地方創生では起業から廃業まで、総合的な支援をという意味での位置付けは非常に大きいと思う。企業が苦しいときにどう動くかは各金融機関に定着しているので問題ないと思うが、起業支援などに力を入れていかななくてはならない。ただ、補助金を出すだけでは集まってこない。元々の文化があるので、その地域にあったものを考える必要がある。
  - 起業支援やソーシャルビジネスなど、新しいものにチャレンジできる場の提供ということで、県内では柏市が典型的に実施している。産官学連携で1つの拠点をつくり、そこに新規参加者が集まって研究をしたり交流をしている。ただし、柏市の弱さは育った人材が外に出て行ってしまうことである。その動きが柏市の中で繋がると良い。
  - 成田市が特区を使って医療先進都市を目指している。成田市に行けば医療について学べる。ものづくりもある。医療、看護を受けることができる。色々な意味での産業が集積したまちなになる。
  - それぞれの自治体に見合ったものが良い。成田市は国際都市、柏市は産官学連携。茂原市としてどう特徴を出していくか。
- 委員
  - 創業支援に力を入れていかなければいけないと思う。どう顧客をみつけ、指導していくかが問題である。地域資源も色々あるが、企業を資源として考えるべき。事業継承の問題があり、ほとんどの顧客が廃業している。後継者がいない企業に対し、第三者を紹介するという支援をしていかななくてはならない。7月からセンターを開設し、開始しているが、まだうまくいかない。
- 座長
  - 広い意味での就業支援となると、事務局の話では市の狙いとずれているという話であったが、もう少し膨らませて説明いただきたい。
- 事務局
  - 農業の後継者がいなくて困っていると思う。収入の問題で子どもに継がせたくない親もいる。銀行は企業の情報を持っていると思うので、マッ

委員 座長 委員	<p>チングをし、新たな展開に繋がるのではないかと期待している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 情報をいただければ、ビジネスマッチングの連携はしていきたい。</li> <li>• 天然ガスの話はどうか。</li> <li>• 産業としては掘っている会社が8社程度。大多喜ガスとしては茂原中心に展開しているが、グループだけで500人程の雇用。</li> <li>• あまりPRされていないかもしれないが、近隣公営ガス事業者のガス単価はおそらく全国で1番安い。弊社は民間企業のため公営の水準までは落とせないが民間レベルでは全国で1番安い。大口の顧客ではガラス加工の会社がある。ただし地盤沈下の問題で生産量を増やすことができない。</li> </ul>
副市長	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 大量生産でなく芸術村のようにガラス工芸の著名人を集め、村を作るといった話も出ている。</li> <li>• 戦略の目標は人口を増やし活気をつけることである。方法としては企業誘致をし、茂原市に住んでもらうか、東京に通勤してもらうか。東京への通勤利便性をあげるなど方法はいろいろある。茂原市は地域の中心の工業のまちであったので、その点は外せない。</li> </ul>
座長	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 歴史の流れの中での位置付けは、まちづくりのストーリー化を図っていく上では大事な視点である。天然ガスが難しいのであれば、特化した形での新たなものということでアイデア出しをお願いしたい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 本納駅東地区のまちづくり協議会の会長を務めている。総合戦略の話を聞き、まちづくりの取り組みをどう取り入れていったらよいか考えている。基本は住む場所の完成度であると思う。本納地区は水害地区である。人が住めるまちづくりをしなくてはいけない。本納地区は過疎地域である。特に農業従事者も高齢化となり、休耕地となった田んぼが雑草地になっている。また、昨年度から本納駅は無人駅となった。戦略といっても、まず住めるまちづくりが先なのではないか。</li> <li>• 一方で本納には行政の拠点である支所があり、長生病院も近くにあり、恵まれた地域であると思う。市長がよく北の玄関口と話しているが、本当の玄関口にしたい。</li> </ul>
座長	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 災害、土地、道路、河川という視点の関わりで広い意味でのまちづくり。地域によって人口が集中するところとそうでないところの地区間の差というのも、総合戦略へどういった関わりを持ち得るのか、という話である。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 住みよいまちづくりとすると、茂原市はある程度条件が整っているのではないか。それをどうアピールしていくか。特色を出したいので、皆さんから意見をいただき、ヒントを得たいと考えている。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 前回配布された資料について。総合戦略は何かをつくり上げ、人を集め税収を増やすものであり、企業と同様に茂原市という財政状況を良くしていくものであると理解している。関東大会が開催できるようなサッカー</li> </ul>

- 一場をつくるなど、住みよいまちというだけではなく、ものづくりを伴う戦略にする必要があるのではないか。
- 事務局
- ものづくりという点においては、施設をつくるという方法もあるが、人をつくる、体系をつくるといった方法もある。ハード面とソフト面の両方で考えていく必要がある。
- 委員
- 国は1億人をキープしようとしている。いかに人口減少を食い止めるかが最大の課題である。住んでみるとこんなに良いところはない。
- 座長
- 本日は結論を出す場ではなく、いろいろな案を出していただく場である。教育というところからはじめ、地域に定着させるにはどうしたらよいか。圏央道により人をどう移動させるか。広域的な視点も含めて考える。まちの住みよさや魅力は、生活目線と産業的視点で考え、どう盛り込むかということになる。
  - 認知度が低いというデータが示されたが、見せるというために何ができるのか。観光スポットを気にするだけでは足りない。地元の人たちがどういう協力体制を組み、どういうおもてなしをしているのかを色々な角度から観光資源に絡めて見せるか。そういった意見を皆さんから出していただきたい。
- 副市長
- 茂原市の特性を活かした特色のある総合戦略にしたいと思うが、行政だけで考えると従来通りのものになってしまいがちである。皆さんの意見を賜り、良い戦略にしたい。
- 事務局
- 【次回の会議の開催について】**  
第3回 8月19日(水) 午後2時から  
場所は決まり次第連絡する。

以 上